

研究結果報告書

研究結果

この1年間の研究期間中、京都の日本文化研究センター（日文研）での文研調査/研究、中国国内でのいろいろなセミナーへの参加、或いは多くの専門家/学者達との交流等を通じて、元老政治の本質についてより深く分析できた。

具体的には、日文研をはじめ各所の図書館を利用し、元老政治に関連する各種史料を精査し分析した。こうした調査を通じて、日本にはどんな先行研究があるか、また、日本の学者達が注目する問題点がどこにあるのかと云ったことが理解できるようになった。特に、元老と内閣、軍部や宮中との関係に関する各種史料を収集し、分析したことが、今回の私の研究に大いに役立ったことは幸いであった。

訪日時、日文研の瀧井一博准教授、京都大学の伊藤之雄教授はじめ多くの著名な学者/研究者と交流することができ、多くのご助言やご指導を賜ったことは、本研究の遂行上、大変有益であった。

1年間の研究を通じての最大の成果としては、「元老」と呼ばれた人々の性質/性格/特徴と、「元老」の存在理由を理解できたことである。「元老」の定義は、法制上にその定めはないものの、実際の政治の場では常に大きな影響力を持っていた。元老の主な権能は、第一に、後継内閣首相を奏薦できることであり、更には、御前会議や重要な閣議に参加することである。時には、その権勢を背景に時の内閣の施政に干渉したり、内閣と議会或いは軍部との対立時には元老自らが調停にあたることもあった。

「元老」勢力が存在した要因はいくつかあろうが、本研究の中では、明治憲法体制の欠陥が最大の要因であることを指摘した。さらに、明治憲法体制下の内閣が、日本独自の特徴を持っていたことも、要因の一つとして指摘した。また、本研究では、それぞれの元老勢力の中心人物（キーパーソン）別に、四つの時期に分け、元老と内閣の関係を分析した。更には、元老が後継内閣首相を奏薦する奏薦機能を検討した。

元老政治という課題は多くの問題点を含み、元老政治の全体像を解明することは容易ではない。しかし、「元老の存在」が近代日本の明治憲法体制時の特徴の一つであることは明らかである。本研究をきっかけとして、今後は、引き続き、近代日本の明治憲法体制の実像について究明・考察し、解明していきたいと考える。具体的には、明治政府のリーダーたちの憲法構想と明治憲法の特徴に焦点を当て、新たな視点から様々な元老政治の疑問点を解明していきたい。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「日清戦争前後日本の中国認識の変化」、張艶茹、世界歴史研究所・西北大学・南京大学共同主催『世界歴史上の戦争・平和と衝突』国際学術セミナー、2102年4月20-24日、西北大学。

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- (1)、「近代日本首相産生機制研究」、張艶茹、『日本問題研究』、2012年第1期。
- (2)、「第二次西園寺公望内閣の増師問題研究」、張艶茹、『日本問題研究』、2013年第1期。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)